

## 令和5年度 医師の負担軽減及び処遇改善に関する具体的計画

衛生委員会作成

項目	項目	具体的な取組内容	評価方法	目標達成年次	令和5年度 目標数値	過去3年の実績		
						2年度	3年度	4年度
業務分担	NSTが治療方針を踏まえ、食事の形態について提案	摂食・嚥下について多職種が連携し、個別介入により食事形態を主治医に提案	NST介入患者数	達成済み (令和5年度も継続)	100名	5名	15名	100名
	薬剤の投与量の調節	がん性疼痛及び緩和ケア認定看護師を活用し、ターミナルステージのペインコントロールや便秘患者に対する排便コントロールを行う	介入患者数	達成済み (令和5年度も継続)	4名	該当者なし	3名	4名
	心理的ケアの実施	医師の指示により、臨床心理士による心理カウンセリングを行う	介入件数/患者数	達成済み (令和5年度も継続)	500件/150名	575件/113名	596件/149名	392件/137名
	入院の説明の実施	入院予定の患者に対し、地域連携室において入院説明を実施	実施患者数	達成済み (令和5年度も継続)	40名	46名	46名	20名
	医療クラークの配置	医療クラークを有効に配置し、医師の負担の軽減を図る。また、新規の医師については、電子カルテの操作のレクチャーを行う。	医療クラーク数	達成済み (令和5年度も継続)	9名	7名	8名	8名
	病棟薬剤業務の推進	病棟に専任薬剤師を配置し、従来の薬剤管理指導業務とともに、新たに病棟薬剤業務を推進し、医師の処方支援、適切な情報提供等を通して薬物療法の支援を行う。	病棟薬剤師配置数	達成済み (令和5年度も継続)	5名		6名	5名
	栄養指導の強化	医師と管理栄養士が連携して患者の病状を把握した上で、患者の食生活やライフスタイルをふまえて、具体的で実行可能な食事療法を患者様と一緒に考えて提案する。	栄養指導件数	達成済み (令和5年度も継続)	200件		214件	180件

小豆島中央病院

医師の勤務体制等にかかる取組	短時間正規雇用の医師の活用	子育て又は介護等の理由により短時間勤務での勤務を可能とする	短時間勤務者数	令和5年度中	1名	該当者なし	該当者なし	該当者なし
	日当直業務の負担軽減	土日を中心に、日当直業務の一部を非常勤医師が担当し、医師の負担を軽減する。	常勤医師の1か月の平均当直回数	達成済み (令和5年度も継続)	2回	1.7回	2.6回	1.9回
		従来医師が作成していた日当直の割振りについて、案を事務部が代行して作成し、医師はチェックと承認のみを行う。また、連続当直とならないように配慮する。また、手術のある医師については、手術予定日についても配慮する。						
	専門医の雇用	専門的知識を有する分野の診療について、専門医を雇用して対応し、医師の外来診療業務の負担を軽減する。また、診療方針についての指導・助言を受ける。	雇用人数	達成済み (令和5年度も継続)	80名	76名	86名	84名
	院外業務の負担軽減	老人ホームへの巡回診療、診療所での業務の一部を非常勤医師が担当する。	延雇用人数	達成済み (令和5年度も継続)	2名	1名	2名	2名
子育て中の医師に対する配慮	院内保育所の設置	院内保育所による保育を実施する。土曜日保育も行い、子育て中の医師のニーズに合わせた保育を行う。	利用人数	達成済み (令和5年度も継続)	1名	該当者なし	1名	1名
他の医療機関との連携	地域の医療機関との連携	地域の他の医療機関との連携を強化することで、紹介数(他院→小豆島中央病院)、逆紹介数(小豆島中央病院→他院)の向上を図る。	紹介数/逆紹介数	達成済み (令和5年度も継続)	2,000件/1,700件	1,989件/1,657件	1,952件/1,657件	1,956件/1,691件
その他	医師の確保	民間医局を活用し、従来の枠組みを超えて、医師の募集を行う。	新規採用者数	令和5年度中	1名	非常勤医師:1名	該当者なし	該当者なし

## 令和5年度 看護師の負担軽減及び処遇改善に関する具体的計画

衛生委員会作成

項目	項目	具体的な取組内容	評価方法	目標達成年次	令和5年度 目標数値	過去3年の実績			
						2年度	3年度	4年度	
業務分担	看護助手の配置	看護助手がベッドメイキング、物品の運搬・補充、病室の清掃等を担当し、看護業務以外の負担を軽減する。	看護助手数	達成済み (令和5年度も継続)	15名	6名	14名	15名	
	介護福祉士の配置	専門的な知識と技術を有する介護福祉士を配置し、介護業務・介護指導を担当する。	介護福祉士数	達成済み (令和5年度も継続)	20名	19名	21名	21名	
	歯科衛生士の配置	歯科衛生士による歯垢除去や嘔み合わせなどの専門的な口腔ケアを行う。	介入患者数	達成済み (令和5年度も継続)	400名	430名	357名	403名	
	看護クラークの配置	看護業務の事務的業務を行う。	看護クラーク数	達成済み (令和5年度も継続)	3名	3名	3名	3名	
	技師の活用		看護必要度における看護記録について、リハビリテーション科職員も記録の一部を代行する。	代行リハビリテーション科職員数	達成済み (令和5年度も継続)	14名	12名	13名	14名
			看護師が行っていた患者の送迎について、診療放射線技師で手の空いている者がいれば代行する。	送迎代行件数	達成済み (令和5年度も継続)	50名	20名	50名	30名
看護師の勤務体制等に係る取組	短時間正規雇用の看護職員の活用	子育て又は介護等の理由により短時間勤務での勤務を可能とする	短時間勤務者数	達成済み (令和5年度も継続)	8名	5名	6名	8名	
	多様な勤務形態	多様な勤務形態を導入し、看護職員が勤務しやすい体制を整備。夜勤専従看護師の導入	利用人数	達成済み (令和5年度も継続)	8名	10名	8名	8名	
	非常勤職員の雇用	短時間勤務の非常勤看護職員を雇用し、看護職員の負担を軽減する。	新規採用者数	達成済み (令和5年度も継続)	2名	6名	1名	2名	

小豆島中央病院

妊娠・子育て中の看護職員に対する配慮	子育て中の夜勤減免制度導入	産後又は育児休暇から復職した看護職員の夜勤を減免する	減免者数	達成済み (令和5年度も継続)	8名	11名	14名	8名
	院内保育所の設置	院内保育所による保育を実施する。土曜日保育も行い、子育て中の看護職員のニーズに合わせた保育を行う。(平成28年度から開園)	利用人数	達成済み (令和5年度も継続)	15名	14名	12名	16名
過重労働への配慮	超過勤務の縮小	柔軟な配置転換を実施することにより、部署間のバランスを図り、超過勤務の縮小を目指す。	1人あたりの超過勤務時間数	達成済み (令和5年度も継続)	5h/月	4.2h/月	5.1h/月	5.5h/月
	有給休暇取得の推奨	休日が十分に消化できない職員に対しては、休暇が取得できるように周囲がサポートできる体制を作る。	1人あたりの有給休暇取得日数	達成済み (令和5年度も継続)	10日/年	9.1日/年	10.0日/年	10.5日/年
	臨床心理士によるカウンセリング	職場・仕事だけでなく子育て・家庭について悩んでいる職員のため、希望者には臨床心理士によるカウンセリングを実施	カウンター件数/利用者数	達成済み (令和5年度も継続)	100件/25名		153件/30名	59件/18名
県事業の活用	助産師出向支援導入事業の活用	助産師の偏在是正を主たる目的とした県事業を活用し、他病院から助産師の出向を受入れる。	出向受入れ人数	達成済み (令和5年度も継続)	10名			3名